

神様は何でもお見通しか？ 幼児における神様の超自然的知覚についての概念 (中間報告)

常葉学園大学教育学部 中道圭人

Could God know everything? Young children's concepts on the supernatural perception of God.

Faculty of Education, Tokoha Gakuen University NAKAMICHI, Keito

要約

欧米の研究では、幼児であっても観察可能な具体的な存在だけでなく、様々な観察不可能な存在に関する概念を持つことが示されている。たとえば、酸素やビタミンといった科学的存在は手で触ることも目で見ることもしないが、幼児は酸素やビタミンが実在すると考えている。この観察不可能な存在の概念に関して、一部の研究者は神様の存在や能力に注目している。それらの研究は、幼児が神様の実在を信じていることや、神様がヒトを超えた様々な能力を持つと認識していることを示している。この幼児の神様概念は文化により影響されると考えられるが、日本の幼児を対象とした研究はほとんどない。そこで本研究では、日本人幼児における神様に関する概念の一部を明らかにする実験を行っていく。本稿では、まず従来の研究を概観し、予備調査の結果を報告していく。

【キー・ワード】 就学前児, 認知発達, 神様概念, 誤信念

Abstract

Studies in Europe and America showed that even young children had concepts of the non-observable entities as well as the observable ones. For example, although young children can't see and touch scientific entities (e.g. oxygen, vitamins), they don't doubt about their existences. As one of the concepts of the non-observable entities, some researchers have been focusing on God-concept. These researches showed that young children had the various concepts of God. However the concepts of God might be culturally influenced, there was little study in Japan. Therefore, the present study examines Japanese young children's concept of God. This article reviews previous studies, and reports the results of preliminary experiment.

【Key words】 preschooler, cognitive development, god-concept, false-belief

問題・目的

「悪いことをしたら、神様の罰があたるよ！」これは、多くの人が子どもの頃に一度は言われたことのあるフレーズであろう。我々は神様に直接会ったり、見たりするわけではない。それにも関わらず、大人は“神様は身近にいたくとも、自分達の行動を見通している”といった神様に関する概念を持ち、それを子どもに話している。

では、このように言われている子ども達自身はどのように神様を認識しているのだろうか。近年、欧米では幼児・児童の直接的に観察不可能な存在に関する概念発達が注目されている (e.g., Harris & Koenig, 2006; Harris, Pasquini, Duke, Asscher, & Pons, 2006)。この観察不可能な存在には実在する科学的存在 (例: 酸素, ビタミン), 実在しないが比較的受容されている存在 (例: 歯の妖精, 神様), あまり受容されていない空想上の存在 (例: 怪獣, 魔女) 等が含まれており, その存在の1つとして“神様”の概念に関する研究が進められている。それらの欧米の研究 (e.g., Barrett, Newman, & Richert, 2003; Barrett, Richert, & Driesenga, 2001; Giménez-dasí, Guerrero, & Harris, 2005; Knight, Sousa, Barrett, & Atran, 2004; Richert & Barrett, 2005) では, 幼児・児童にヒトと神様の能力や特性の違いを尋ねることにより, 神様概念の発達を検討してきた。たとえば Barrett et al. (2001, Ex1) は, 3-6 歳児に実験者がクラッカーの箱からクラッカーをバッグに移し替えるのを見せた後, それを見ていない神様・母親がクラッカーを見つけるのに最初にどこを探すかを尋ねた。すると, 神様に関してはいずれの年齢でも「バッグを探す」と回答するのに対して, 母親に関しては年齢発達に伴い「箱を探す」と回答することが多かった。このように, 欧米の幼児は発達に伴い“神様はある情報を得るために直接的な知覚的アクセス (例: 見る) を必要としないが, ヒトは知覚的アクセスを必要とする”という, 神様とヒトを区別した認識を持っていた。また Barrett et al. (2001) 以外の研究でも, 幼児が“神様はヒトより優れた知覚能力を持つ (例: ヒトには遠くて見えない文字でも, 神様なら見ることができる)” (Richert & Barrett, 2005), “ヒトとは異なり, 神様は年をとらず, 死ぬことは無い” (Giménez-Dasí et al., 2005) などと認識していることが示されている。全体的に, これらの欧米の研究は, 幼児が“神様はヒトを超えた超自然的な能力・特性を持つ”と認識していることを示している。

この欧米で検討されてきた幼児の神様概念は, 日本人幼児でも類似の概念を持つ, あるいは類似の発達をたどるのだろうか。現時点で, 日本人幼児における神様概念を検討した実験的な研究はほとんど見られない。数少ない実験的研究である中道 (2011) では, 日本人幼児を対象に参加児自身・母親・神様が空想上の存在 (例: 妖精, しゃべるクマ) を見ることができるかを尋ね, 全体的に幼児が“自分自身や母親は空想上の存在を見れないが, 神様なら見ることができる”と認識していることを示している。また, 冒頭のようなフレーズが日常的に話されることを踏まえると, 日本の幼児でも欧米と類似した神様概念を持ち, 類似の発達をたどる可能性はある。しかしながら, 日本は欧米諸国に比べて特定の宗教を信仰している人の割合が低く (日本=3割以下, 欧米諸国=6-7割以上: 林, 2010), 幼児が生活の中で神様という存在について自然に学ぶ機会 (例: 礼拝に行く) は欧米諸国より少ないと考えられる。そのため, 日本の幼児は欧米とは異なる神様の概念を持つ, あるいは欧米とは異なる発

達をたどる可能性もある。

前述のように、現時点で日本の幼児における神様概念はほとんど検討されておらず、いずれの可能性が妥当であるかは明らかではない。そこで本研究では Barrett et al. (2001)などを参考に、日本人幼児における“神様の超自然的な知覚能力”に関する概念の発達を検討する。これは、未だ明らかとなっていない日本人幼児の神様概念の一部を明らかにすることとなる。また、日本における観察不可能な存在についての概念発達を今後検討していく上でも、1つの知見を提供することにもなるだろう。さらに文化的背景に関して、日本は欧米諸国より特定の宗教を信仰する人が少なく（前述参照）、広く信仰されている宗教も日本（仏教・神道）と欧米諸国（キリスト教）では異なっている。これを踏まえると、日本人幼児を対象とした研究の結果は、神様に関する概念発達の文化間での違いを考えるための材料を提供することにもなるだろう。

全体的な研究計画

本研究では本実験に先立ち、幼児が神様という存在をどの程度認知しているのか（知っているのか）を予備的に調査した。佐藤（1967）では、保護者が特定の宗教を信仰していない場合でも、その保護者の子ども（3-6歳）の85%が“神様がいる”と考えていることを示している。しかしながら、佐藤（1967）は40年以上前のデータであり、現代の幼児でも類似の結果であるかは定かではない。本実験において“神様を知っている”幼児を対象とするために、予備調査を行った（結果は後述を参照）。

次に本実験に関して、参加児は特定の宗教を信仰していない公立保育所に通う、神様を知っている年中児・年長児各16名ずつを対象とする。また本課題に関して、Barrett et al. (2001)を参考に、誤信念課題と類似した課題（事物が移動されたことを見ていない存在が、その事物の場所が分かるかを尋ねる）を用いる。本課題で登場する対象は神様・ヒトだけでなく、ヒトより優れた嗅覚（犬）・聴覚（兎）・視覚（猫）を持つ動物やヒトと類似した知覚の動物（猿）も加える（犬・兎・猫・猿の知覚能力に関しては、事前に参加児に知識の有無を尋ねておく）。

神様・ヒトだけを対象とした場合、幼児が神様とヒトで異なる反応をしたとしても、それは“ヒトは情報を得るのに知覚的アクセスを必要とするが、神様のことは分からない”と考えた結果である可能性がある。ヒトより優れた知覚を持つ動物やヒトと類似した知覚を持つ動物との比較が、この可能性を排除するのに役立つ。たとえば、移動された事物から何かの匂いが出ている場合、ヒトや猿はその匂いを感じとれず、事物の場所を同定できない。一方、ヒトより優れた嗅覚を持つ犬はその匂いを感じ、事物の場所を同定できる。もし幼児がヒトの知覚能力だけに基づいていれば、ヒト以外の存在すべてに類似した反応を示すだろう。一方、ヒトだけでなく各存在の知覚能力を考慮しているなら、事物の種類と各存在の能力によって反応を変化させるだろう。そこで、本研究では課題に登場する存在として神様・ヒト・犬・兎・猫・猿を用いて実験を行うこととする。

予備調査

方 法

参加児は、公立保育園に通う年中児・年長児 32 名（男児 17 名，女児 15 名；平均年齢=5:10，範囲=4:9-6:8）であった。

手続きに関して、各参加児に個別面接を行った。個別面接では、まず「神様を知っているか」（既知質問）を尋ねた。神様を知っていると回答した場合、続けて「神様は本当にいると思うか」（実在質問）を尋ねた。最後に、神様の存在を他者が信じているかを、「みんな『いる』と言う」、「『いる』と言う人と『いない』と言う人が半分ずついる」、「みんな『いない』と言う」の 3 つの選択肢から選択させた（他者信用質問）。

結果と本実験への示唆

既知質問に関して、32 名中 23 名（71.9%）が「神様を知っている」と回答した。この 23 名に関して、実在質問では 23 名中 19 名（82.6%）が「神様は本当にいる」と認識していた。また、他者信用質問では 23 名中 15 名（65.2%）が「みんな『いる』と言う」を、6 名（26.1%）が「半分ずついる」を、2 名（8.7%）が「みんな『いない』と言う」を選択した。

幼児の 7 割強が神様を認知し、それらの幼児の多くが神様の実在を信じ、周囲の人々も自分と同じように神様の実在を信じていると考えていた。今後、この結果を参考に本実験を行っていく。

引用文献

- Barrett, J. L., Newman, R. M., & Richert, R. A. (2003). When seeing does not lead to believing: Children's understanding of background knowledge for interpreting visual displays. *Journal of Cognition and Culture*, *3*, 91-108.
- Barrett, J. L., Richert, R. A., & Driesenga, A. (2001). God's beliefs versus mother's: The development of non-human agent concepts. *Child Development*, *72*, 50-65.
- Giménez-Dasí, M., Gnerrero, S., & Harris, P. L. (2005). Intimations of immortality and omniscience in early childhood. *European Journal of Developmental Psychology*, *2*, 285-297.
- Harris, P. L., & Koenig, M. A. (2006). Trust in testimony: How children learn about science and religion. *Child Development*, *77*, 505-524.
- Harris, P. L., Pasquini, E. S., Duke, S., Asscher, J. J., & Pons, F. (2006). Germs and angels: The role of testimony in young children's ontology. *Developmental Science*, *9*, 76-96.
- 林 文 (2010). 現代日本人にとっての信仰の有無と宗教的な心-日本人の国民性調査と国際比較調査から-. *統計数理*, *58*, 39-59.
- Knight, N., Sousa, P., Barrett, J. L., & Atran, S. (2004). Children's attributions of beliefs to humans and God: Cross-cultural evidence. *Cognitive Science*, *28*, 117-126.
- 中道圭人 (2011). 幼児の神様に関する理解: 神様は空想上の存在を見ることができるのか? 常葉学園

大学研究紀要(外国語学部), **27**, 229-245.

Richert, R. A., & Barrett, J. L. (2005). Do you see what I see? Young children's assumptions about God's perceptual abilities. *The International Journal for the Psychology of Religion*, **15**, 283-295.

佐藤初重 (1967). 幼児における宗教意識の発達. 日本基督教団宣教研究所・第三分科(編) キリスト教幼児教育の原理 (pp.146-151). 日本基督教団出版

